

# 令和2年度 淀川管内水害に強い地域づくり協議会 (京都府域) 首長会議 議事概要

日 時：令和2年7月17日（金） 10時00分～11時30分

場 所：長岡京市中央生涯学習センター メインホール

## 【出席者】

山本 宇治市長	中小路 長岡京市長	堀口 八幡市長	上村 京田辺市長
河井 木津川市長	前川 大山崎町長	信貴 久御山町長	中 笠置町長
堀 和束町長	杉浦 精華町長	山本 淀川・木津川水防事務組合管理者	
富山 京都府 建設交通部長		山口 京都府 京都土木事務所長	
渡邊 京都府 乙訓土木事務所長		村田 京都府 山城北土木事務所長	
西村 京都府 山城南土木事務所長			
佐々原 (独)水資源機構関西・吉野川支社 淀川本部長			
内藤 気象庁 京都地方気象台長			
藤原 淀川ダム統合管理事務所長		三戸 淀川河川事務所長	

## (以下代理出席)

井手町 副町長	京都市 危機管理監	城陽市 危機管理監	向日市 防災安全課長
---------	-----------	-----------	------------

淀川右岸水防事務組合管理者 兼 桂川・小畑川水防事務組合管理者 京都市建設局土木管理部  
河川防災担当部長

## 【報道関係】

京都新聞社

## ■議題

- 1) 淀川管内水害に強い地域づくり協議会について
  - ① 協議会の概要
  - ② 令和元年度の活動報告
  - ③ 今年度の活動予定（行政ワーキンググループの結果報告）
- 2) 「新型コロナウイルス感染症蔓延下における避難対策について」  
日本赤十字北海道看護大学 根本昌宏 教授
- 3) 避難対策に関する意見交換
  - ① 首長報告：新型コロナウイルス感染症蔓延下における各市町の避難体制
  - ② 意見交換

## 【避難対策に関する首長からの取組報告】

### <宇治市長>

- ・コロナ禍の避難所の運営について国や京都府が示す内容に基づき、準備を進めている。
- ・避難所における感染リスクの軽減を図るために、第一の選択として在宅避難や親戚・友人宅への避難などについて検討いただけるよう市ホームページ、広報誌などで感染啓発を行っている。
- ・避難所については、新型コロナウイルスの状況下で発熱等の症状の方の避難所について検討している。発熱の方などを最大 6 カ所に別の避難所を開設するという考え方で対応し、簡易間仕切り、簡易ベッド、簡易トイレ等の物品も準備して開設の準備をしている。
- ・一般の方の避難所については、各対策が間に合うのかということを実務レベルで、専門家のご意見も受けながら、今後も現場で十分訓練をしていきたいと思っている。
- ・非常持ち出し品についても常日ごろから準備していただくように推奨しているところである。特に新型コロナウイルスの状況下では通常の非常持ち出しと合わせて、感染症の対策物品、体温計、マスク等の準備、避難所内での感染症対策を市民の皆様に周知啓発を行っている。
- ・市民への周知については、特に車中での避難というのは宇治市の場合は水平な場所で浸水地域が非常に多いことから、車で逃げ始めると渋滞が伴い、高いところへの避難にも結構時間がかかる。このため、早くから市民にどういう周知をしていくのかということが大きな課題と思っている。
- ・防災訓練や出前講座等の機会に、NHK のデータ放送や FM うじのラジオ放送、携帯電話の緊急速報メール、エリアメール、京都府の防災防犯メール等により情報の入手が可能なことの普及啓発を行っていきたい。
- ・コロナ対策については、コロナ対策本部を 1 月に開設して二十数回対策本部を繰り返し開いている。事務局を担当する健康長寿部と危機管理室との連携はできているが、今日の先生のお話を十分に聞いて、連携に齟齬が起きないようにしっかりやっていかなければいけないと改めて思った。
- ・新型コロナ禍での水害というのは初めての経験になるため、市民に不安を与えないためにも訓練を繰り返し、マニュアルなどを説明し、京都大学の防災部門とも十分連携をして、専門の先生方のご意見を入れながらコロナ対策下での避難体制、避難の管理運営に努めていきたい。

### <長岡京市長>

- ・コロナ状況下での避難所運営ということでさまざまな準備を行っているところである。
- ・一次避難の場合の避難所運営マニュアルを作成している。
- ・本市の場合、警報等で避難所を一次避難所として開設するのが山側で約 4 カ所、河川

の浸水ケースとしては 2 カ所の避難所が毎年何回か開設している。その際の避難所の運営では、市域が非常に狭く、移動も簡単にできるので、コロナあるいは発熱者の対応として別途完全分離をしてやっていこうという方針を持っている。

- ・保健センターに保健師を常駐させる形で、発熱者については電話でまず問い合わせいただく、保健センターをご案内する。実際に避難所に来られた方は検温をした上で、発熱者が出た場合には市内のタクシー事業者と連携をしており、タクシー事業者によって発熱者専用の避難所まで搬送していくというフローで対応していくことを決めている。
- ・市民には、最初の段階でハザードマップを確認してもらうことが何よりも大事であるため、6、7、8月号の広報でも、フローチャートのような形で、まず自分の住んでおられるところがどういう地域にあるかを確認いただくことをお願いしている。過去の経験から、実際に雨の警報で避難して来られた方の中には避難が不要な方も結構来られているというケースが多いため、今回、このコロナ禍で、しっかり情報を伝えていかなければならないと思っている。
- ・マルチ避難という観点では、車中泊避難の場所として公園用地、公民館の駐車場等を一定確保するという決めたところである。
- ・本市は以前から各避難所に災害時のマンホールトイレの整備を順次進めており、概ねすべての避難所施設にはマンホールトイレの設置が完了済みである。このマンホールトイレを実際に住民の皆さん方が災害避難所開設時に使えるかが課題であり、まだまだ訓練が必要と考えている。
- ・大雨、台風に備えて一次避難所としての運営マニュアルをしっかりと整備しながら、実際に発災時の長期避難を要するような場合の二次避難所としての整備についてもこれからマニュアルをしっかりと定めていきたい。既に必要な間仕切り、パーテーションの関係等については手配をしている。
- ・市内 10 小学校区すべてで、年に 1 回、10 月の最終日曜日を長岡京市防災の日として定めて、防災訓練を行っている。コロナ禍ではあるが、訓練は工夫を凝らして実施していく方向で調整していきたいと思っている。

#### <八幡市長>

- ・国や京都府の方針をもとに新型コロナウイルス感染症流行下における避難所開設等の考え方を概ね 5 点にわたり整理して取り組もうとしている。
- ・「可能な限り多くの避難所を開設する」、「親戚や知人の家など避難所以外の安全な場所への避難について検討をお願いする」、「避難所に体調不良者等専用ゾーンを設けて、入所時の健康チェックにより一般避難者と動線を区分、ゾーニングする」、「避難者同士の間隔を通常よりも広く設定する」、「定期的な健康状態の把握、衛生環境の確保に留意する」ということで、取り組もうと決めたところである。

- ・6月に避難所における感染防止のための体温計やフェイスシールドなどを緊急調達し、避難所の模擬開設による検証を行った。これにより、各避難所の人員の配置はこれまでの約2倍は必要かなということがわかった。
- ・避難所開設には受け入れ準備、受付、誘導という共通した流れがあり、受付では検温及び健康チェックシートの記入等により一般の避難者の方と体調不良者を区分することが以後の避難所運営に大きく影響することから特に重要な作業と考えている。
- ・さらに施設の使用区分や避難者の動線の設定など、机上で検討した結果を現場において確認作業をしていくという段階である。
- ・市内4中学校のうち、2校で停電のときにLPガスバルクに切り替えができるエアコン設備を付けたので、避難時における環境整備として、今年度残り2校に整備していきたい。
- ・浸水区域にある京都京阪バス50台の避難場所を市が提供する代わりに、市民の避難誘導についての応援協定を結んだ。空振りをおそれずに前日にこのバスによる避難誘導を行う必要があると考えており、高齢者の皆さんの足の確保等については東部地区の浸水区域についてはある程度目途が立ったと思っている。

#### <京田辺市長>

- ・昨年の台風19号の災害の教訓、今年の新型コロナウイルスの対策等々で避難のあり方が大変な課題になっているが、災害時には危険な場所にいる人は避難するという原則や、安全な場所にいる人まで避難する必要はないことから、指定避難所だけでなく、在宅や親戚宅なども選択肢としてあるという従来からの避難に関する理解が何より重要であると思っており、広報誌やホームページ等で市民への周知に向けて十分努めているところである。
- ・市においては避難場所に適する宿泊施設がない。災害発生時にすぐに使用できる避難に適する施設としては小中学校、高校、大学があるので、小中高で対応できる分は小中高で対応しつつ、それ以上の大規模なものでは、大学を使用するという形で、大学も指定避難所に指定している。
- ・地域版の防災マップ、避難所運営マニュアルにおいて日ごろから各地区や市民に避難所を指定しており、避難所の変更などへの混乱を防止するということがあるので、まずは避難の意義を理解していただくとともに、在宅などの避難が不安な方はこれまでどおりの避難をしていただく。ただし、3密や体調不良者に対する感染防止に必要な措置などについては避難所配備職員の案内などにより実施することになっている。
- ・ホームページや広報誌などで避難の理解力キャンペーンという形で内容を周知している。
- ・体温測定や健康チェックなどを実施して体温が高い方や体調が悪い方は別途、別の場所に防護ネットのようなフィルムを張った車での移動を行う。指定場所は、保健師の

対応を考えて、保健センターにも近い、市役所近辺の施設を指定している。

- ・避難所のパーティションなどの資材はある程度準備はしており、必要に応じて使用していきたい。
- ・親族を含めた近郊の避難と、これまで推奨はしてきていないが車中避難をどうするかということを中心に対策を考えておかないといけない。あともう 1 つは、トイレ対策をどうするかということを中心に考えておく必要があり、これらを今後の検討課題として考えていきたい。

### <木津川市長>

- ・市が指定している指定避難所は 57 カ所である。避難者の収容可能人数は約 1 万 7000 人である。新型コロナウイルスの感染予防対策として避難所内での社会的距離を確保すると収容可能人数はその半分の約 8000 人程度まで低下するものと見込んでいる。
- ・市では分散避難を推進して、収容能力の低下を補完することを考えている。市民の皆様にはまずハザードマップを確認していただき、危険を伴わない地域にお住まいの方については在宅避難で対応していただきたいと考えている。また、可能な方につきましては親戚や友人の家への避難も 1 つの方法として皆さんに呼びかけている。
- ・車中泊による避難については、災害支援協定を締結している市内の大型商業施設の駐車場をご利用いただけるよう現在調整をしている。また、移動式のトイレを車中泊避難場所に整備をしていきたいと検討しているところである。
- ・分散避難の方法については、市のホームページや広報誌、また自主防災組織の代表者の方や地域の代表者の方が集う会議において説明を行った。
- ・避難所での受け入れ体制については、避難所での 3 密を回避し、感染リスクの軽減を図るため、受付時の体温測定や消毒などのほか、避難所が学校の場合は普段開設している体育館ではなく、校舎の教室へ避難誘導することを準備している。さらに発熱や風邪などの症状がある方については避難所内でゾーンを分けるなど、動線も含めて他の避難者と交わらない計画を準備している。また、今後はさらに避難所内での感染リスクを下げるため、プライバシーテントや段ボールベッドを購入する予定である。
- ・本年 6 月 3 日に新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設運営訓練を相楽小学校で実施した。この訓練により、避難所開設要領、車中泊避難者の受け入れ要領、発熱者等への対応要領を確認したところである。
- ・この訓練から見えてきた課題として、感染予防資機材を保管する場所の確保、通常時以上に避難所開設時のマンパワーが必要なこと、避難所開設までに想定以上の時間を要することである。今後、これらの課題についても災害対策本部の中で早急に検討していきたいと考えている。

### <大山崎町長>

- ・従来から指定している 5 カ所の避難所のみで、新たに避難所を増やす、あるいは宿泊施設を使用する想定は、対象施設がないため実施できない。したがって、避難所でのいわゆる 3 密対策を厳格に実施するために、必要な避難スペースの確保は不可能であることから、広報誌やホームページで避難所以外への避難、いわゆる分散避難を呼びかけている。
- ・避難所開設時には学校において児童、生徒が使用する普通教室は使用想定に含めていなかったが、今年度は学校長などと協議した上で、普通教室も広く使用することとしている。
- ・避難所で使用する非接触型体温計、マスク、アルコールなどの消耗品類は一定の確保ができており、全正規職員を対象として避難所における新型コロナウイルス感染対策における説明会を先日実施した。
- ・課題として、避難生活が長期化するような事態となった場合に、応援職員や災害ボランティアの受け入れが必須であるが、九州の状況などを見ていると、新型コロナウイルスの影響下でどの程度ボランティアを受け入れることができるか大変危惧している。

### <久御山町長>

- ・3 密となり得る避難所の開設、運営に対して、資機材等の準備を進めている。避難所運営時に必要な消毒液やマスクなどの消耗品の購入、自主避難所の増設、3 密を回避するための避難所でのレイアウトや人員体制についても検討を進め、必要と考えるブルーシートやドームテント、簡易ベッド等の調達を進めている。
- ・コロナ禍における避難のあり方として住民の皆さんの理解が大変重要であることから、分散避難の考え方や、マスク、消毒液などを備蓄しておく必要性などを周知している。
- ・地域の自治会に防災部局の担当者が伺い、コロナ禍での避難のあり方や町の感染防止策について、顔の見える関係での説明を行っている。その際にはハザードマップの重要性や避難行動タイムラインの必要性、自主防災リーダーとなり得る防災士の資格の説明なども併せて行って、地域の防災力を向上させるように取り組んでいる。
- ・自治会で、マスク、消毒液を購入される場合に、その経費の一部を補助する制度を新設した。
- ・町全域が水に浸かるため、広域的な避難の場所の確保が喫緊の課題と認識している。京都府の協力を得て、今議論をさせていただいている広域的な浸水想定区域外の場所に避難場所を確保するということは、お集まりの皆様のご指導やご協力が必要不可欠である。

### <笠置町長>

- ・本町はこれまでも 28 災、伊勢湾台風、61 年の災害など、数々の水害、大規模な土砂崩れなどを経験してきた。今年度ハザードマップの見直しが行われて、最大水深高が高くなったということで、町内ほぼ全域真っ赤になってしまった中で、住民の避難を考えていかなければならない。
- ・役場は要支援者、要介護者の受け入れを最優先でやるための対応に追われるため、住民には自主避難を考えて動いてもらわなければならないだろうと考えている。
- ・避難場所の確保に関しては、広域連携によってどこか他市町に避難場所を求めていかなければいけないだろうと考えている。
- ・町内の避難所の設置については、交付金で段ボールベッドと必要な資材を購入したが、61 災の経験があるので電源対策として、灯光器、温風器、冷風機の購入を考えている。
- ・コロナとの共生ということで、避難所が小学校になるため、小学校の教室を使えるということになっており、そこに分離避難という形が可能と思っている。
- ・交通途絶ということを見ると 72 時間は生き延びなければいけないと考えているので、食料品の確保も重大な課題になってくると考えている。

### <和束町長>

- ・小さな町であるため、住民と協働して自主的に避難を考えていかないといけない。避難所においても日ごろから第一次として公民館をそれぞれ自治会の中に置いている。そこでは判断をしなければならぬときがあり、二次として小学校単位など、いろいろ大きいところで予定している。
- ・住民の方に、まず 28 年の過去の災害も参考にしながら、どういう状況が起こるのか。それを 1 人 1 人認識してもらおうということが大事だということから、ハザードマップは非常に大事なことであるため、これをフルに利用して住民との話し合いを進めているところである。
- ・訓練は小学校単位での実施を考えている。
- ・コロナウイルス感染症蔓延下では国や京都府のマニュアルを基本にして、日ごろから情報の提供に努めている。全世帯に配備している個別受信器、テレビなどで、水量の状況を住民の皆さんとお互いに確認しながら進めている状況である。
- ・避難所では、体温計による検温、問診等避難者の体調のチェックは行っていかなければならない。
- ・体調の不良者については、事前にスペースを設けて確保する。常に避難所と役場の職員とは責任者を設けており、連絡を取り合って、保健師が避難所を巡回して避難者の健康管理を行うという体制を維持していく。
- ・パーテーションや間仕切り、段ボールベッド等の資材は確保しており、住民には避難時に当面の食料、水、医薬品、可能な限りマスク、体温計、消毒などを日ごろから用

意できるものは袋に入れておいていただき、持参するといった話し合いもされている。

- ・トイレの重要性については感染という観点から大事だということを改めて認識し、住民との意見交換を深めていくのに役立てていきたい。

#### <精華町長>

- ・1月に新型コロナウイルス感染症対策本部を設けた。
- ・避難の体制として、まず避難者が避難所に来られたときには健康チェックをし、疑わしき方がいらっしゃれば本町の保健センターに一時隔離しようと考えている。
- ・町では浸水に対しては安全な新興地が多く、あまり避難という形はとられない。
- ・土砂災害地域が9地域あり、その地域の方々に対しては、早期に避難準備、あるいは高齢者に避難勧告をしている。
- ・そういった地域の方々には防染対応の機材類を今配置している。特に9地域に関しては、地域の役員、自主防災会の方々と勉強会を行い、マニュアル作成をしているところである。ございます。自治会長がすぐに対応していただけるような対応をしておるところでもございませう。
- ・避難場所、公共施設、特に集会所等々に対して、これから暑さ対策、3密対策を行っていかねばならないため、換気の良い空調設備に替えていきたいと考えている。

#### 【首長等による意見交換】

#### <根本教授>

- ・首長の皆様方からのご意見から、地域性をいかに踏まえて、各地域に応じた対策を行うかということの重要性を感じた。住民の方との接点、距離をいかに縮めるか、ここは災害対策の基本になるろうかと思う。コロナ感染下ではあるが、できる訓練をぜひ実施していただきたい。自分たちの町だけではどうしようもならないという大きな災害が来る可能性もある。そのときにやはり近隣の広域の市町、もしくは府、国、さまざまところのセーフティネットが働かなければいけない。このような会議体の中で、顔の見える関係を形づくっていただけると大変ありがたいと思う。
- ・コロナの感染下においては満員表示が出る避難所が出ると思う。満員となったときの案内をどうするか、ぜひお考えいただきたいと思う。
- ・在宅避難を実現するために重要なことは自宅の備蓄である。水、食料、電気など、この備蓄を進めていただくことが分散避難を実現する大きなポイントになるろうかと思う。
- ・コロナウイルス対策の備品として袋に入れてほしいものの中で特徴的なものは上履きである。これが接触感染を防ぐキーポイントになる。
- ・今、球磨村で困っているのがお薬である。自分のお薬は持参していただきたい。
- ・これらがコロナの感染下においてはより一層、皆様方からもご啓発をいただきたい項目となるろうかと思う。



<井手町（副町長）>

- ・井手町においても、今年の 5 月に京都府から公表された「避難所運営における新型コロナウイルス感染症への対応マニュアル作成指針」に基づいて 6 月に町のマニュアルを作成し、今シーズンは乗り切ろうという形で進めている。
- ・地域の各避難所においてどのようにブレイクダウンしていくかを検討しており、各市町さんと同様に、コロナに感染した方々、もしくは疑わしい方については専用の施設に集中しようという形で考えているところである。
- ・町では、職員に感染が出たが、それを抑え込むために、京都府の保健所、保健部局と行政が密に連携をして、最小限の感染で防げたのではないかと感じている。今後の避難対策等についても、保健部局と防災部局が連携する形でタッグを組んでやっていくことが大事であると思う。

以上